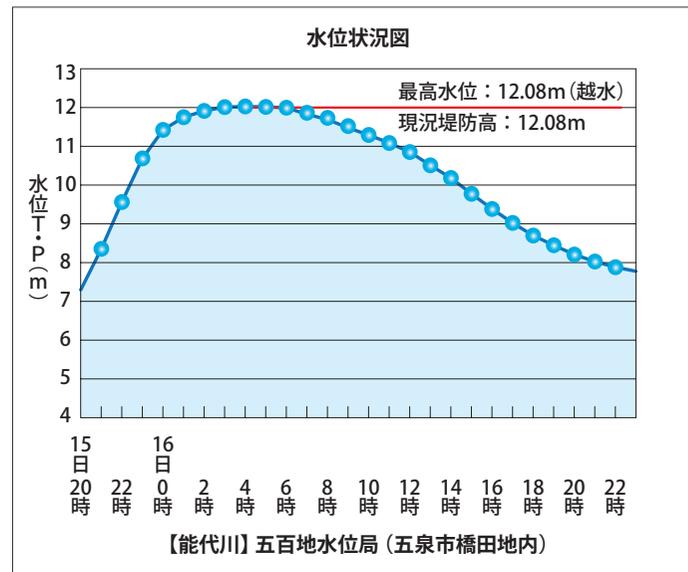
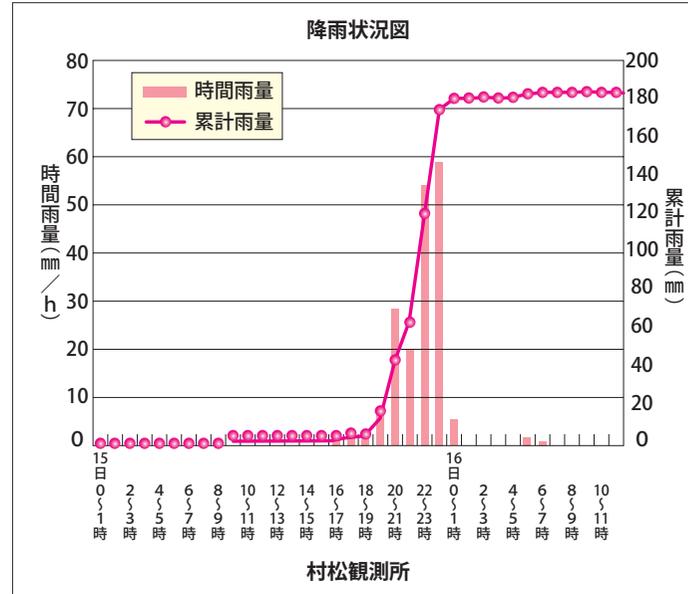
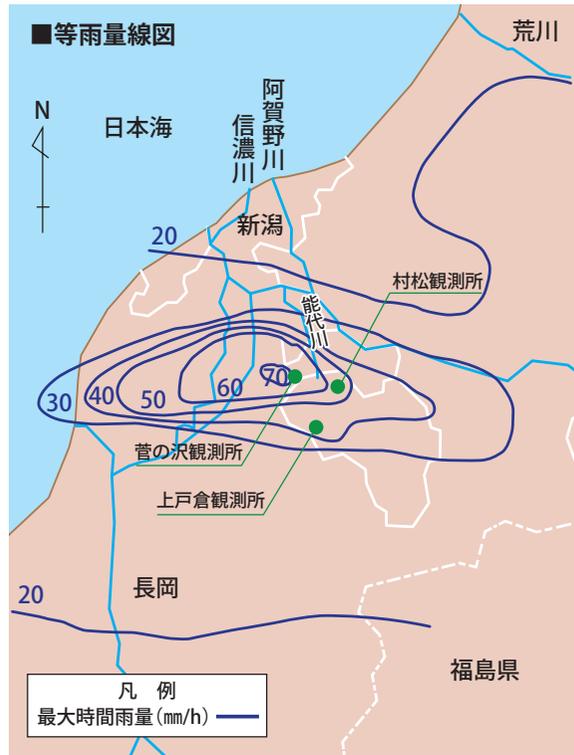


平成12年7月15日に発生した能代川の水害について

■雨量及び出水状況

新潟県中越、下越地方に停滞していた梅雨前線は、急激に活発化し、平成12年7月15日夜半から16日未明にかけて、下越地方を中心に局地的な短時間の集中豪雨をもたらしました。降り始めからの総雨量は、菅の沢観測所で168.0mm、上戸倉観測所で140.0mm、村松観測所で182.0mmを記録し、そのほとんどが7月15日20時から16日0時に集中しており、特に1時間の雨量では、菅の沢76.0mm/hr(15日23時)、上戸倉46.0mm/hr(15日24時)、村松59.5mm/hr(15日24時)と非常に強い雨を観測しました。*村松観測所では24時間の降雨量が昭和49年観測開始以来、最大を記録。

なお、この雨で能代川五百地水位観測所では堤防の高さと同じ12.08mの水位が記録されています。



■被害の状況

能代川の流域でも中流域にあたる五泉地域で被害が集中しており、越水により浸水した面積が975ha(東京ドーム約210個分の面積)となり、床上浸水が172戸、床下浸水が535戸と甚大な被害が発生しました。これによる一般被害額は約42億円となっています。また、洪水により川の護岸の欠壊や、川底の低下に伴う河川施設への被害が発生しています。

